

## 平成27年度 第2回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成27年9月28日(金) 午後1時30分 開会  
午後4時15分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 中会議室
- 3 出席者  
・町長 佐野 和広          ・教育長 渡辺 拓雄          ・教育長職務代理者 芦澤 和彦  
・教育委員 入月 一巳      ・教育委員 四條 勉          ・教育委員 望月 恵美
- 4 事務局等の出席者  
町長部局 総務課長 四條 和彦  
教育委員会事務局  
学校教育課長 青木 司      生涯学習課長 梶原 猛      学校教育課主幹 若林 将基
- 5 協議事項  
(1) 教育大綱について  
(2) 学力学習状況調査から見える南部町の子どもの姿  
(3) コミュニティ・スクールの設置について  
(4) その他
- 6 議事経過の概要  
次のとおり

### 1 開会 芦澤教育長職務代理者

(要旨) 教育委員会制度が変わり、町長と教育委員会が十分な意思の疎通を図り、共通認識をもって課題に取り組んでいます。今日は、教育大綱が中心となりますが、学校、家庭、地域、行政が、これからの南部町を支える子ども達を支援する指針となるべきものを作っていきたいと思います。

### 2 町長あいさつ

(要旨) 先日、地方創生会議が行われ、これからの5年間をどうするのか議論が交わされました。南部町は小さな町ですが、教育、文化を広めて、将来子ども達がこの町を担うような教育を行い、この町に住んでいきたいと思えるような町づくりを目指していきます。そのためには、総合教育会議でしっかりとした大綱を作り、ふるさと教育を進めていきたいと考えています。

### 3 教育長あいさつ

(要旨) 平成27年度も半年が過ぎようとしています。秋は、各学校を始め、学校教育、生涯教育、生涯スポーツが様々な行事に取り組んでいます。

学校や教育委員会は、教育行政の中のネットワークで繋がっているため、この繋がりを整理することが大事になります。第1回の総合教育会議で検討していただいた大綱は、まさにネットワークを整理し、回路を繋ぐことだと思います。

本日は、大綱を完成に近づける会議になりますのでよろしくお願いします。

#### 4 第1回総合教育会議の確認

事務局（学校教育課長）が、議事録に基づき説明し、内容が確認された。

#### 5 議事

##### （1）教育大綱について

教育長より、「資料2 南部町教育大綱」について説明があった。

（委員） 全体的に網羅されている。P6 施策（1）の「学校・家庭・地域の連携による子ども支援の充実」に行政を加えたらどうか。

（委員） 地域を、地域社会にすると行政も含まれるので、地域社会にしたらどうだろうか。

（教育長） 行政も含めた大きな広がりという意味から、最終稿は地域社会とします。

（委員） P2 第2章「2 南部町の教育の目標」中の地域は、身近な地域なのか、それとも、郷土、ふるさとを指す広い意味なのか分からない。

（教育長） 南部町全体を指す言葉として、地域からふるさとに変えることにしたい。

（委員） P4 施策（5）「開かれた学校をめざした教育環境の整備と充実」中の幼・保・小・中の円滑な接続に関しては、小学校から中学校への円滑な接続を図るために、小中教員の連携を深め、進学時の不安を解消するような組織づくりをしてほしい。また、福祉保健課、子育て支援課、教育委員会の連携、役割の明確化が必要だと思う。

P6 施策(2)「青少年の地域活動、社会活動への参加促進」中のボランティア活動への参加に関連して、手話、点字、美化等ボランティアの心を養うために、中学校にボランティア部を作ったらどうか。また、ボランティア活動の受け入れ窓口を設けてほしい。

学校教育課長が、「特別支援教育連携協議会」の活動状況を説明した。

（教育長） 小中学校間の交流では、中学校の協力を得て N 授業で英語を行うことを検討している。

（町長） 子ども達のボランティア活動は、学校教育課が窓口となり対応すればよい。現在、敬老年金の支給対象者を見直している。敬老年金を減額することができれば、それを子どもの支援に回したいと考えている。

（総務課長） ボランティアは、社会福祉協議会が窓口となり活動している。子どものボ

ランティアは、学校教育課が窓口になればいいと思う。

(委員) 学校教育・生涯学習・生涯スポーツ・地域の教育力など、大綱が基準となるものは、具体的な計画があるのか伺いたい。実際に取り組むときに、具体的な活動としてどの程度達成できるのか気になるところだ。

(教育長) 学校教育の取り組み方針は、イメージを膨らませて編集することができたが、生涯スポーツ、地域の教育力は総合計画をベースに整理、統合して仕上げた。

(町長) 生涯学習は、生き生き大学等かなり充実している。また、生涯スポーツは、ゲートボール、グラウンドゴルフ大会等の参加者が多く、シニア世代が頑張っている。昨年、なんぶ健康会議を立ち上げ、いつまでも健康に暮らせるように様々な取り組みを行っている。

(委員) 中学生の防災活動は、学校と自主防災会が連携を取ることで、中学生が関わる防災の町づくりが出来ると思う。この大綱は、学校や行政だけでなく広く周知することが必要であり、P3 施策(2)「生命や人権を尊重し、自らを律し他者を思いやる豊かな心の育成」中のボランティアや地域貢献活動を受けて、P6 施策(2)「青少年の地域活動、社会活動への参加促進」中の地域活動に「防災活動」を加えれば、学校と地域で防災活動を推進することになる。

(町長) 中学生が防災訓練に参加したのは良かった。平日、災害が起きたときに戦力となるのは子ども達なので、南部教育の一環として、子ども達を防災訓練に参加させるべきだ。子ども達が参加することにより、底辺から防災意識を盛り上げる大きな力になると思う。

(委員) 早い段階で町の方針を学校へ伝えれば、参加することが可能になる。

(教育長) 学校で年間計画を作成する前に、交通防災課と連携して学校に伝える必要がある。教育委員会と学校の課題として考えていきたい。

(委員) 防災会は子ども達を受け入れる体制を作る必要がある。最初は顔合わせ程度でも参加させることが大切だ。

(教育長) 教員、児童生徒の意識改革と、受入れる体制として区長会の理解が必要となる。それには、早い段階から取り組むことが必要になるので検討したい。

(委員) 町民会議のテーマに加えるなど、積み上げていくことが必要だ。

(委員) 中学生が防災組織を作り活動を始めると、地域の意識が変わってくる。

(町長) ここ数年、防災に対する取り組みが変わってきたが、各防災会でまだ開きがある。自主防災組織を子ども達から盛り上げることも必要であり、南部教育の一環になるのではないか。

(教育長) まとめとして、ボランティア、防災教育等、子ども達を地域の力として活用するためには、ふるさと教育の枠の中に取り組む必要がある。また、子ども達の活躍が地域の大人の刺激剤となるという話合いが持たれた。

## (2) 学力学習状況調査から見えてくる南部町の子ども姿

教育長より、児童・生徒質問紙から見た本町の子ども達の生活習慣、規範意識などの傾向について説明があった。

(教育長) 調査から見えてくる子ども達の姿を確認していただき、子ども達の学力や生活の向上につながる施策について意見交換を行い、子ども達の伸ばすべき点、克服すべき点について、学校や家庭でどんな支援ができるのか意見を伺いたい。

(委員) 地域の協力を得ながら、地域との関わりの中で手漉き和紙の卒業証書作りが続いている。町の感謝状などに使ったらどうか。

(教育長) 子ども達の自尊感情が育つきっかけは、地域に貢献していることを自覚することなので、さらに自尊感情を高めるために、子ども達が漉いた紙を感謝状などに使ってほしい。国際的な比較の中で、日本の子ども達は自尊感情が低い結果が出ている。自信をもって前向きに生きることを支援していきたい。

(委員) 小学校から中学校へ入ると読書量が落ちる傾向にある。大綱に読書のすすめが入っているが、具体策を考える必要がある。

(町長) 図書館の利用率が低い。中学校を統合した時の本が残っているので活用策を考えなければいけない。

(委員) 中学生は部活動があるので、読書の時間を生み出せないのではないか。日曜日の使い方が重要になる。家庭と学校が連携して、子どものやる気を引き出すことを考える必要がある。

(教育長) 子ども達には地域との関わりを持たせ、自信のある生き方をさせる手だてを講じたい。読む習慣、読む活動など図書館の利用は、町民全体として考える必要がある。学力向上は、普段からの準備、部活動との関わりなど計画的な取り組みを家庭、学校で考えていかなければならない。

(委員) 学力を向上させるためには、成績が悪い理由を究明しなければならない。学校は、行事の精選や教育課程の編成を含めた対策を講じる必要がある。また、教員の指導力向上も考えなければならない。

(教育長) 学力テストの分析結果は10月に報告したい。学力向上は、学校教育の第一義的な課題として考えている。いろいろな角度からご支援をいただきたい。

(町長) 学習時間と行事の配分を考える必要がある。成績がすべてではないが、やる気を重視した教育をしてほしい。

## (3) コミュニティ・スクールの設置について

事務局より、コミュニティ・スクールの役割、活動について説明があった。

(教育長) 南部中学校が来年度コミュニティ・スクールの指定を受けるが、今までにない学校の姿になると思う。取り組み方により、子ども達の学力を伸ばし、成長を促し、地域と学校の間関係をより強固なものにすると思う。

コミュニティ・スクールにかける期待、思いなどを伺いたい。

(委員) 学校長の時は、地域から意見を聞く機会があり、情報も発信していたのでこのような組織はいらないと思っていたが、エリア防災会が出来て必要性を感じた。学校運営協議会を通じて、防災対策を進めてほしい。

(委員) 学校と地域が連携し、風通しをよくすることが必要だ。学校でやるべき事をしたうえで、地域に支えてもらうことを明確にすべきだ。中学校の指定後は、小学校にも広げるのか検討しなければならない。

(町長) 小学校に学校運営協議会が設置されると、地域文化の拠点は学校と考えられ、統廃合の考え方に影響が出てくる可能性がある。町内に避難所は沢山あるが、耐震基準を満たしているところは少ないため、学校が必要となる。

(教育長) コミュニティ・スクール推進委員会が10月1日に発足します。この2年間をよく見ながら、町全体でどう考えていくかがテーマになると思う。アイデア、工夫の余地があるので、これから研究していくことにしたい。

## 6 閉会 入月一巳委員

(要旨) 長時間に渡り、ありがとうございました。町の教育について語り合いながら、町長の目指している一流の南部町の礎になる教育、文化を盛り上げ、今日話題に出されたことが、徐々に浸透していくように進めていきたいと思えます。